

# 一.V. 教育研究

## 平成 30 年度 三原市立本郷小学校 研究推進計画

### 1 教育研究のテーマ

#### (1) 研究主題

**誰もが学ぶ喜びと自信が持てる、主体的・対話的で深い学びの創造**

～算数科・道徳科を中心に～

#### (2) 主題設定の理由

広島版「学びの変革」アクション・プラン（平成 26 年 12 月）にて提唱された「育てようとする資質・能力及び態度の育成をめざす授業」が本年度より完全実施となる。問題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、自ら深く考え、それを統合して新しい答えを創り出す力、②アイデア・情報・知識の交換や共有、アイデアの深化や答えの再吟味のために他者と協働・協調できる力、③協調的・創造的な問題解決のために、どのような分野においても、「学び続ける力」の育成が必要である。すなわち「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアクティブ・ラーニングの視点をいかした授業づくりが求められている。

本校の児童の実態を見ると、「難しい問題を前にすると考える術が分からず、あきらめてしまう」「自分で考えをもったり答えを導き出したりすることはできるが、他者に分かりやすく説明したり、交流することでよりよい考えを導き出したりしようとしないう」児童が多い傾向にある。また特別な支援を要する児童も多く、児童に学習の方向性を明確にし、個人・集団で学び・考える意欲を高め、目指す資質能力を身につけていくことが必要である。

昨年度は、「授業のユニバーサルデザイン」を活かした授業づくりをさらに進め、付けたい力を教師・児童が共有して、目標と指導と評価の一体化を目指した授業改善を図った。学習の基盤となる『本郷スタイル』を確立する中で、ユニバーサルデザインを活かした授業をつくる中で目指す資質能力①論理的思考力②コミュニケーション能力③自己肯定感④主体性を育み、他者と協働・協調できる力をつけることをねらってきた。本郷スタイルを主体性とした学習のきまりを進めてきたことにより、学校全体が落ち着いた環境で学習でき、さらにはコミュニケーション能力を意識したコミュニケーションカードの利用により、児童の自己肯定感は上昇し、学びを振り返ることができるようになってきた。しかし児童自身が自らの思考を整理し、さらに他者とのコミュニケーションにより思考を深めていく過程の定着と同時に、児童自身が自信を持つことによる各種学力調査の平均点 UP が求められている。全校一体となった授業のユニバーサルデザインによる授業改善を確立し、今年度作成した「魂の授業モデル」を活用しながら誰もが課題解決のために意欲的に参加し、議論できるための授業改善を進める必要がある。

そこで今年度は、ユニバーサルデザインを意識した「魂の授業モデル」（H29 年度作成）の授業づくりをさらに進め、目指す資質能力育成の視点でしっかりと学習基軸を確立させたい。この授業基盤の上に育てようとする資質・能力及び態度が形成されると考えるからである。

児童の資質能力育成のためのさらなる授業改善を図っていきたい。

### 2 主な研究教科及び領域名

算数科・道徳科

### 3 研究仮説

『授業のユニバーサルデザイン』の視点で「魂の授業モデル」学習基盤を確立し、コミュニケーション活動を仕組んだ授業改善を行えば、児童の論理的思考力・コミュニケーション能力が高まるであろう。

### 4 検証の指標

- ①児童教職員アンケート
- ②児童ノート等
- ③標準学力テスト及び  
各種思考力をはかるテスト

### 5 達成目標

- ① 育てたい資質能力の育成（①論理的思考力②コミュニケーション能力）の児童評価及び教職員評価の数値が 80%以上
- ② 算数科・道徳科の児童評価が 80%
- ③ 標準学力テストにおいて、市平均以上